

再評価結果

担当課：有料道路課
担当課長名：上野 進一郎

事業名 常磐自動車道（山元～亶理）	事業区分 高速自動車国道	事業主体 東日本高速道路(株)
起終点 自：宮城県亶理郡山元町小平 至：宮城県亶理郡亶理町逢隈中泉	延長	11.5 km
事業概要 常磐自動車道は、関東地方と東北地方南部の太平洋沿いの主要地方都市を結び、産業、経済、文化の交流発展に資する路線である。		
H10年度事業化	H8年度都市計画決定 (H 年度変更)	H12年度用地着手
H12年度工事着手		
全体事業費	約321億円	事業進捗率
計画交通量	8,700台/日	76 %
費用対効果 分析結果	B / C (事業体) 3.0 (残業) 10.3	総費用 (残業)/(事業全体) 107 / 369億円 事業費：62 / 324億円 維持管理費：45 / 45億円
	総便益 (残業)/(事業全体) 1,101 / 1,101億円 走行時間短縮便益：927 / 927億円 走行経費減少便益：139 / 139億円 交通事故減少便益：35 / 35億円	基準年 平成20年
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施		
交通量変動 : B/C = 11.4 (交通量 +10%) B/C = 9.3 (交通量 -10%)		
事業費変動 : B/C = 9.8 (事業費 +10%) B/C = 11.0 (事業費 -10%)		
事業期間変動 : B/C = 10.6 (事業期間 -1年) B/C = 10.0 (事業期間 +1年)		
事業の効果等 拠点都市間を連絡し相互の連携が強化される 高度医療施設までの搬送時間が短縮される 緊急輸送道路が通行止めになった場合の代替路線を形成する		
他13項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 東北道・磐越道と共にネットワーク化が図られることにより、その大きな整備効果が発現される。地域の自立的な発展や物流の効率化、東北道の事故・災害時の代替機能、医療の高度化などを支援する上で早期整備が望まれる区間である。緊急避難路・輸送路としても早期整備が必要な路線である。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 隣接する新地～山元間が平成18年3月に事業許可。現在、富岡～亶理間全区間で事業中。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 現在工事中。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 今後も引き続き工事の推進を図る予定。		
施設の構造や工法の変更等 新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。		
対応方針	継続事業	
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。	
事業概要図		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。